

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

『落葉集（本篇）データベース』の構築と公開：  
附：異種古辞書連携のためのキー策定の試み

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立国語研究所 公開日: 2026-01-23 キーワード (Ja): 落葉集データベース, 古辞書, 辞書語彙データベース, 日本国語大辞典, デジタルヒューマニティーズ キーワード (En): Rakuyōshū Database, Old Japanese dictionaries, Jisho Goi Database, Nihon Kokugo Daijiten, digital humanities 作成者: 藤本, 灯, 久保, 柁子, 劉, 冠偉 メールアドレス: 所属: 清華大学, 総合研究大学院大学 博士後期課程, 京都大学
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/0002000605">https://doi.org/10.15084/0002000605</a>

This work is licensed under a Creative Commons  
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0  
International License.



## 『落葉集（本篇）データベース』の構築と公開

——附：異種古辞書連携のためのキー策定の試み——

藤本 灯<sup>a</sup> 久保 柁子<sup>b</sup> 劉 冠偉<sup>c</sup>

<sup>a</sup> 清華大学

<sup>b</sup> 総合研究大学院大学 博士後期課程／国立国語研究所 非常勤研究員

<sup>c</sup> 京都大学／国立国語研究所 共同研究員

### 要旨

本稿では、室町時代の国語辞書を収録した『落葉集（本篇）データベース』の構築・公開と、古辞書横断検索システムのための共通キー策定の試みについて述べる。共通キーには『日本国語大辞典 第二版』（以下、『日国』）の見出し語（ジャパンナレッジ所収 URL）を用い、『落葉集』のイ・ロ部のデータとの連携を試みた。結果として、『落葉集』語彙には『日国』に収録されない語が少なからずあることが明らかとなった（熟語では 466 語中 62 語）。また『日国』に収録があっても、主要古辞書の収録状況を示す辞書欄がなかったり、『落葉集』以降の例を初出とするものなどが散見され、本作業が『日国』の補綴としても利用価値のあることが認められた\*。

**キーワード**：落葉集データベース、古辞書、辞書語彙データベース、日本国語大辞典、デジタルヒューマニティーズ

### 1. はじめに

筆者らは現在、『本草和名』『和名類聚抄（底本：古活字本）』『三卷本色葉字類抄』『落葉集』（本篇）』『文明本節用集』『増続大広益会玉篇大全』『和訓栞』を収録する『辞書語彙データベース』（<https://jisho-go.kojisho.com>）を構築中である（以上、下線は全文データを作成済みのもの。一部データ公開中<sup>1</sup>）。本稿では、そのうち『落葉集（本篇）データベース』<sup>2</sup>の構築・公開（2節）と、そのデータを元とした、中世・近世辞書のデータ横断検索システムを構築するための工夫と問題

\* 本研究は、清華大学大学自主科研 (W01・2023THZWJC31, 藤本灯), JSPS 科研費 (21K18364, 21H00529・23K20465, 23K17500, 23K28379, 23KJ1822, 24K16080, 25K00465, 25K00466) および国立国語研究所に係る以下の3つの共同研究プロジェクトの成果の一部である。( ) 内はプロジェクトリーダーを表す。

・「多様な語彙資源を統合した研究活用基盤の共創」（小木曾智信）のサブプロジェクト「語彙資源ポータル拡張」（高田智和）  
・「開かれた共同構築環境による通時コーパスの拡張」（小木曾智信）  
・人間文化研究機構の広領域連携型基幹研究プロジェクト「異分野融合による総合書物学の拡張的研究」の国語研ユニット「古辞書類に基づく語彙資源の拡張と語彙・表記の史の変遷」（高田智和）

本稿は『じんもんこん 2023 論文集』および『日本語学会 2023 年度秋季大会予稿集』に公開されたもの（藤本・久保・劉 2023, 藤本・劉・久保・大島 2023）の一部に加筆修正したものである。またその他関連する口頭発表として、藤本灯・劉冠偉・申雄哲・中野直樹・李媛・小林雄一・大島英之・久保柁子「辞書学書写的連結：以辞书语汇数据库的构建为例」（第十三届漢字與漢字教育國際研討會，2024年2月17日）がある。

<sup>1</sup> 『本草和名』『和名類聚抄』のデータ化については劉・武・申・韓・藤本（2025）で報告した。

<sup>2</sup> 将来的に「本篇」以外の公開も見込むため、公開データベース名は『落葉集データベース』としてある。

点 (3 節), 展望 (4 節) について報告する。

## 2. 『落葉集データベース』の構築と公開

『落葉集』は、慶長 3 (1598) 年イエズス会版の辞書で、「本篇」(音引き)と「色葉字集」(訓引き)、「小玉篇」(字形引き)から成る。諸本のうち、大英図書館本、フランス国立図書館本、『耶蘇会板落葉集総索引』はインターネット上で閲覧可能である。音訓の表記が当時の発音に基づいているとみられる点や、同じ漢字には共通の訓が用いられ『落葉集』編纂当時の標準的な訓を示している点とみられる点は、日本語史の研究資料として重要である。一方で『落葉集』は、古辞書<sup>3</sup>類の中でも比較的単純な構造をしており(「本篇」は代表字を除けば熟語のみを収録すること、注文を持たない点など)、データ化に向いていることなどから、2019 年より藤本は京都府立大学の学生であった久保らと共に、耶蘇会本部文書館本およびフランス国立図書館本(Gallica)を底本としたデータ化に着手し、劉と共に 2023 年 3 月に「本篇」を検索システム上で一部公開、同年 5 月 17 日に全文公開した<sup>4</sup>。また 2025 年 8 月 18 日に「本篇」のデータセットをオープンリポジトリ zenodo で公開した(<https://doi.org/10.5281/zenodo.16892693>)。

『落葉集』(本篇)は、「○」の直下に代表字(図 1: ○二)を示し、以降に代表字とあわせて熟語となる漢字(図 1: 「天」「日」「月」)を示す配列方式である。主に漢字の右側の仮名は字音、左側の仮名は字訓を示し、濁点、半濁点の使用もみられる。なお、字訓(例: 図 1 「天」字の左訓「そら」)は一字一字に付いている注釈であり、熟語全体の語形とは必ずしも一致しない(「二天」全体の訓が「ふたつそら」とはならない)。そのため訓は漢字との結びつきの強い代表的な訓読み(漢字の定訓)で

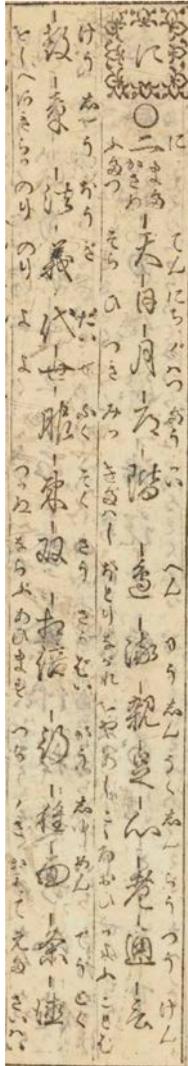


図 1 『落葉集』「に」部冒頭 (Gallica より)

<sup>3</sup> 狭義には、江戸極初期(慶長年間)までに編纂、刊行されたものを“古辞書”と呼んでいるが、ここでは近代以前に編纂された日本の辞書の総称とする。

<sup>4</sup> データ作成の協力者一覧は『落葉集データベース』サイト上に掲載した。また岡島昭浩氏から提供されたデータを校閲に利用させていただいた。なお 2025 年 6 月までに、白井純氏によるデータセットも researchmap 上で公開 ([https://researchmap.jp/read0055157/published\\_works](https://researchmap.jp/read0055157/published_works), 2023 年 7 月 21 日に単漢字部分、同年 8 月 7 日に熟語熟字部分) されている。

あると考えられている。

『落葉集』（本篇）のデータベース化にあたっては、まず表1のように構造化し、Excelに「項目ID」「所属部」「見出し語（漢字）」「右ルビ」「左・下ルビ」「単語構成字数」、笠間書院総索引／天理図書館善本叢書での所在、フランス国立図書館本のURLの情報を入力したうえで、検索システムを通して全文検索ができるようにした（図2）。

表1 『落葉集』（本編）のデータベース構造

要素名	内容
項目ID	RCYXH000010 ※ RCYX…『落葉集』、H…本篇、通し番号（5桁）+ 0
掲出語（漢字）	代表字／熟語形
掲出語（漢字字数）	1～5
掲出語（語形）	音（右ルビ）_代表字 音（右ルビ）_2字目以降 訓（左・下ルビ）_代表字 訓（左ルビ）_2字目以降
所在（部門）	部（イ～ス）
所在（諸本）	笠間書院総索引／天理図書館善本叢書の頁数
所在（URL）	フランス国立図書館本の画像URL
備考／校訂	『落葉集之違字』（本篇末尾）の情報等
『日本国語大辞典』項目	（試行）見出し/URL

辞書語彙データベース 過去のお知らせ 全文データベース プロジェクト関連論文 画像ギャラリー プロファイル 管理 ログアウト

落葉集データベース 試行版 v2023-02

見出し語  
—  
漢字

単語構成字数  
2  
半角アラビア数字

部  
ひらがな

読み（音読み）  
ひらがな（原本表記）

読み（訓読み）  
ひらがな（原本表記）

検索

検索結果：484件

	詳細	部	代表字	熟語	左ルビ(1字め)	左ルビ(2字め(3字め...))	右ルビ(1字め)	右ルビ(2字め(3字め...))	備考
1	詳細	い	—	—日	—	ひ	—	じつ	
2	詳細	い	—	—月	—	つき	—	くはつ	
3	詳細	い	—	—字	—	いへ	—	う	
4	詳細	い	—	—河	—	かは	—	が	
5	詳細	い	—	—郡	—	こほり	—	ぐん	
6	詳細	い	—	—城	—	しる	—	じやう	
7	詳細	い	—	—櫻	—	やぐら	—	るふ	
8	詳細	い	—	—場	—	には	—	ぢやう	

図2 『落葉集データベース』検索結果画面（2025年8月18日）

### 3. 『日本国語大辞典 第二版』（ジャパナレッジ Lib）の項目を共通キーとして活用

『辞書語彙データベース』では現在、公開した各辞書のテキスト検索が可能な状態であるが、今後、文献をまたいだ「語の検索」を可能とするためには、語の同定が必要になる。しかし、①同じ語であっても文献によって表記（漢字字体や仮名遣いを含む）が異なること、②现阶段では文献ごとの性格に合わせたデータ構造となっていること（そのため検索用の見出しデータが収納されたテーブルの設計も異なること）により、横断検索のための語を同定したり、代表形を自ら設定したりすることは必ずしも容易ではない。

そこで筆者らは、表記やデータ構造の差異を克服するために、既存の語彙集（索引）として、小学館『日本国語大辞典 第二版』（以下、『日国』）の見出し語を共通キーとして各辞書の語彙と結び付けることを試みることにした<sup>5</sup>。『日国』を用いるメリットは、古辞書が収録する漢語や和語、連語の類を通時的に幅広く収録する唯一の現行辞書である点、辞書・辞典サイト「ジャパナレッジ Lib」を用いるメリットは、検索結果が項目ごとの単一 ID (URL) を持っている点にある。またデメリットとして、『日国』内部の問題（今野 2018, 藤本 2023, 池田 2024 など）、ジャパナレッジ Lib が有料である点などが考えられるが、後者については本研究の目的である共通キーとしての活用という観点からは原理的に問題とならないであろう。

筆者らは、『日国』の項目を古辞書連携の共通キーとして用いる試みの第一歩として、すでに全文を公開した『落葉集』（本篇）のうち「い」「ろ」部を対象に、『日国』（ジャパナレッジ Lib 所収）の項目 URL（以下、『日国』 URL）を付与する作業を手作業で行った。研究への糸口として『落葉集』を用いた理由は、上にも述べたとおり、内部構造が古辞書の類型として代表的で、かつ単純であることにある。また内容も古代語と中世語の両方を含んでおり、『日国』の「辞書」「表記」欄の使用文献に挙がっていないことから、初出を示す『日国』との関連を考えるための好材料となる。次項以降、URL 付与の具体的手順、結果と問題点などについて述べる。

#### 3.1 『落葉集』（本篇）項目と『日国』項目の結び付け（指針）

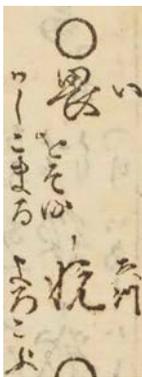


図3 「畏悦」（Gallica より）

改めて述べれば、『落葉集』（本篇）はいろは引きの漢語辞書であり、見出し語（代表字に連なる熟字群）の右に平仮名で字音、左や下に仮名で和訓を示す（図3では代表字「畏」に字音「い」と和訓「かしこまる／をそる」、熟語「畏悦」の「悦」に字音「ゑつ」と和訓「よろこぶ」）。右傍の字音は熟語としての熟合形を想定したものと考えられるが、和訓はあくまでも各単字の注である。また原則として代表字のみの（熟語を持たない）項目が存在しないことから、あくまでも『落葉集』（本篇）は音読みによる熟語辞書であり、代表字の掲出は熟語の「一字目」としての役割が大きいものと考えられる。しかし今回は、他の単字字書や単字掲出のある辞書類との連携を見据えて、代表字(図

<sup>5</sup>『日国』の ID (URL) と古辞書類との連携については、他に高田 (2024)、池田 (2024) らの報告がある。

3:「畏」)も「語」として捉え、『日国』URLを付与することを試みた。一方、熟語の単字和訓(図3:「よろこぶ」)については代表字の和訓と同様の性質であるものとして作業対象からは除外した。

よって、下記の要素を『日国』と結び付けることとする。

#### A 代表字の漢字表記・語形(字音・和訓) B 熟語の漢字表記・語形(字音のみ)

##### 3.1.1 『落葉集』(本篇)項目と『日国』項目の結び付け(単字の基準)

『落葉集』(本篇)の語は、仮名による「語形」と「漢字表記」の二要素を持つが、「語形」を欠く項目があることや、同音同義異表記語、同音類義語との同定などの問題に絡み、場合によって表記と語形の重みを斟酌する必要がある。そこで、まず代表字(単字)について、次の方針を立てた。

###### (1) 代表字(単字)の音読み<sup>6</sup>

①『日国』を『落葉集』掲出漢字(新字)で検索(「見出し/完全一致」)し、その字音の読みと完全一致する「語」を採る。

②『日国』を『落葉集』掲出漢字(新字)で検索(「見出し/完全一致」)し、その字音の読みと完全一致し、内容に当該漢字を含む「字音語素」を採る。

\*①②がそれぞれ複数掲出される場合は、『日国』昇順で並べる。

(例1)『落葉集』「一(いち)」に対しては、(図4)「4. いち【一・壺】」および「3. いち(字音語素)」, 「一(いつ)」に対しては「7. いつ【一・壺】」および「6. いつ(字音語素)」が該当する。

<sup>6</sup>他に次のa~dのような条件を立てた。a. 意味(語釈)は問わない。b. 用例の有無や初出時期は問わない。c. 『落葉集』に示された以外の読み方は採らない(図4「1. イー」「2. いいち」のような別語形のもの、「易(い)」での立項に対する「えき」, 「勇(いう)」に対する「ゆ」「よう」のようなものは採らない)。d. 空項目は採らない(「伊(い)」に対して「イタリア(伊太利)」の略。⇒い【字音語素】)のみが示されるような項目は採らない。

1. イー【一】	<p>【名】「一」の中国音。いち。ひとつ。江戸時代には拳（けん）の用語として用いられ、現代ではマージャン用語として用いられる。＊滑稽本・浮世風呂（1809～13）三・...</p> <p style="text-align: right;">登録する</p>
2. いいち【一】	<p>【副】第一に。一番に。最上の。いっち。いち。＊狂言記・法師物狂（1660）『いいちひとの見めのよきは、たなかごんのかみのまむすめ』[方言]『いいち』静岡県田方...</p> <p style="text-align: right;">登録する</p>
3. いち【字音語素】	<p>一①(1)数の一。ひとつ。／万一／一語、一条、一膳、一台、一度、一日、一人、一年、一名、一問、一葉、一両、一例、一輪、一期一会／(2)いちど。ひとたび。／一往、...</p> <p style="text-align: right;">登録する</p>
4. いち【一・巻】	<p>【一】【名】(1)数の名。最初の基本数。また、いくつかに分けたものの一つ。ひとつ。ひと。いつ。＊万葉集（8C後）一六・三八二七「一（いち）二の目みにはあらず五...</p> <p style="text-align: right;">登録する</p>
5. いち【一・市・都・城】	<p>【接尾】盲人の名につける語。一一名（いちな）。＊黄表紙・高漫齋行脚日記（1776）中「なんと清いち、証文の文言（もんごん）はあれでよからうが」...</p> <p style="text-align: right;">登録する</p>
6. 一つ【字音語素】	<p>1 矢の類 伏①(1)楽しむ。楽をする。／安伏、遊伏、伏蕩、伏遊、伏予、伏楽／伏道、伏老／(2)みだら。／淫伏／伏女／(3)なくなる。うしなう。／散伏／伏文／(...)</p> <p style="text-align: right;">登録する</p>
7. 一つ【一・巻】	<p>【名】(1)数の名。最初の基本数。また、いくつかに分けたものの一つ。「も」を伴って、少しも、の意にも用いる。ひとつ。一。＊史記抄（1477）六・項羽本紀「今に至...</p> <p style="text-align: right;">登録する</p>
8. いっち【一】	<p>【副】（「いち（一）」を強めていった語）ものの程度や状態が、最もはなほだしいさま。第一。最も。いちばん。＊百丈清規抄（1462）二「極遅六十劫とて一（イツ）ちを...</p> <p style="text-align: right;">登録する</p>
9. いん【一】	<p>【名】「いち（一）」の変化した語。「いん一が」「いん五が五」など、下に数字がつづく時にいう。...</p>

図4 『日国』を「一」で検索した結果（見出し・完全一致，昇順）

(2) 代表字（単字）の訓読み<sup>7</sup>

③『日国』を『落葉集』掲出語形（ないしその現代語形，終止形<sup>8</sup>）で検索し，見出し語の表記が当該漢字と一致する「語」を採る。ただし当該漢字が見出しの表記（【 】内）に見えない場

<sup>7</sup>他に次のa～dのような条件を立てた。a. 仮名遣いは問わない。b. 別語形は採らない（「衣（ころも）」に対する「こるも」，「衣（きぬ）」に対する「きん」，「違（たがふ）」に対する「ちがう」，「勇（すくやか）」に対する「すこやか」，「圃（かこむ）」に対する「かくむ」「かこう」「かくう」のような形は掲出語形でない限りは採らない）。c. 同訓異義語で『日国』に複数掲出され，かつそれぞれ『日国』の見出し表記に含まれる場合は，全て採る（「威（おどす）（をどす）」など）。ただし語源が同じと考えられる同訓語でも『日国』で別項とされる場合は，見出しの表記が一致するもののみを採る（『落葉集』「陰（かげ）」は，『日国』【陰・蔭・翳】のみを採り，【影・景】は採らない）。d. 原則として同表記による固有名詞は採らない（国名と考えられる「伊勢（いせ）」に対して平安歌人名は採らない）が，『落葉集』での掲出が地名等の固有名詞であると判断される場合には採る（「伊勢」「伊賀」など）。

<sup>8</sup>いわゆる形容動詞は語幹を採り，作業者が必要であると判断すれば次に関連語形を採る（「異（ことなり）」の場合，「こと」「ことなる」の順に採る）。いわゆる連用形名詞の語は，終止形でも採る（「勢（いきほひ）」の場合，「いきおい」「いきおう」の順に採る）。動詞と助詞等による複合辞は，掲出語形の他，動詞の終止形でも採る（「以（もつて）」の場合，「もって」「もつ」の順に採る）。

合でも、作業者が任意に同定した場合がある<sup>9</sup>。

\*『落葉集』掲出語形が複数ある場合は、漢字の左、下（左から右）の順に並べる。

### 3.1.2 『落葉集』（本篇）項目と『日国』項目の結び付け（熟語の基準）

続いて、熟語については、次の方針を立てた。

- ①『日国』を『落葉集』掲出漢字（新字）で検索し、漢字<sup>10</sup>・語形<sup>11</sup>の両方が完全一致する「語」を採る。

1. いち - じつ 【一日】 〔名〕「いち」は「一」の呉音、「じつ」は「日」の漢音「いちにち（一日）」に同じ。*文明本節用集（室町中）「有能一日（イチジツ）用其力於仁」*日葡辞書〔…	登録する
2. いち - ち 【一日】 〔名〕(1)午前常時から午後二時までの間。古くは、ある日の一時点から次の日のその時点までの間をさすこともあり、また、朝から翌朝までの間をさすこともある。いちじ…	登録する
3. いち - んち 【一日】 〔名〕「いちにち（一日）」の変化した語。*清橋本・浮世床（1813～23）初・下「旦那に透を待居（まって）ちゃア一日（イチンチ）均明ねへから」*人情本・春色権児…	登録する
4. いっち - ち 【一日】 〔名〕「いちにち（一日）」の変化した語。*雑俳・川柳（1780～83）三「一（イツ）ち日（ニチ）憎まれ口へ紅をさし」…	登録する
5. つい - たち 【朔日・朔・一日】 〔名〕「つきたち（月立）」の変化した語。(1)月の初め頃。月の上旬。初旬。*伊勢物語（10C前）二「時はやよひのつたち、雨そほふるに」*蛸蛸日記（974頃）…	登録する
6. ひとつ - い 【一日】 〔名〕「ひとつ（一日）」の変化した語。いちにち。*かた言（1650）三「一日（ひとつ）を、日とひとひ【方言】(1)いちにち。《ひつて》岩手県上閉伊郡097山…	登録する
7. ひてえ 【一日】 【方言】〔名〕⇒ひひとひ（日一日）	登録する
8. ひと - い 【一日】 〔名〕⇒ひとひ（一日）	登録する
9. ひと - え 【一日】 〔名〕「ひとひ（一日）」の変化した語。*浮世草子・椋久一世（1685）下・三「ひとへの日は又日和よかれ、やろか信濃の雪国へ」*浮世草子・近代艶隠者（1686）一…	登録する
10. ひと - ひ 【一日】 〔名〕「ひとひ」の時代も(1)日の数一つ。いちにち。また、いちにちの間。一日中。終日。一日。*万葉集（8C後）一五・三六〇四「妹が袖別れて久になりぬれど比…	登録する

図5 『日国』を「一日」で検索した結果

<sup>9</sup>『落葉集』「異（あやし）」に対する『日国』「あやしい【怪・妖・奇】」, 同じく「衣（かとり）」に対する「かとり【縑】」, 「帷（かたびら）」に対する「かたびら【帷子】」のようなものを採った。また『落葉集』「院（おりいのみかど）」は『日国』では「おりいの帝」と漢字仮名混用, 同じく「逸（いみじ）」は『日国』では「いみじ」という仮名での立項であるが, これらも採った。なお『日国』の画像埋め込み字はExcel作業時には「■」としてある。

<sup>10</sup>『落葉集』「困遶」（『日国』「困繞」）, 『落葉集』「硫磺」（『日国』「硫黃」）など, 作業者が任意で異表記を設定して検索した結果を同定した場合がある。

<sup>11</sup>清濁（「医学士（いがくじ）」⇔『日国』「いがくし」など）, 字音仮名遣いの揺れは問題にせず, 同定する。

②『日国』を『落葉集』掲出漢字（新字）で検索し、漢字や語義は一致するが、音読みの語形が異なるものを採る。

\* 語釈、用例などから明らかに別語と判断されるものは除く。

\* ①②の両者が掲出される場合は両方を採り、①②の順で並べる。

(例2)『落葉集』「一日（いちじつ）」に対しては、(図5)「1. いちじつ」が上記①、「2. いちにち」が上記②に該当する。それ以外の訓読みの語、江戸期以降の別語形などは採らない<sup>12</sup>。

### 3.2 結び付け作業の結果について

以上の基準に従って、以下のように『日国』URLを付与した。(作業者はExcel形式で管理している)

(例3)「医（い／くすゝ）」に対する『日国』URL付与

- ①い【医】 <https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2002002d3425QGRCWhur>
- ②い【字音語素】 <https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2002002d1f803iR24li8>
- ③くす・す【薬】 <https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2002013c1f27Kx51r8Yi>

(例4)「帷幕（いまく）」に対する『日国』URL付与

- ①い-まく【字音語素】【帷幕】 <https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=200200502fbei2P1YoXC>
- ②い-まく【字音語素】【帷幕】 <https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2002004e8cf4H2iSvy9X>

本節では、作業結果のうち、今後の他辞書との連携にむけ、特に確認、報告すべき事項を抽出して示す。

#### 3.2.1 代表字（単字）の音読み—イ部 34 字、口部 13 字（計 47 字）

以下の通り、47字中異なり17字について、『日国』URLを付与できなかった。

・『日国』に「語」としての掲出がなかった15語（下線は「字音語素」でも非掲出<sup>13</sup>）

違（い）委（い）依（い）以（い）硫（い）伊（い）畏（い）逸（いち）逸（いつ）隠（いん）慳（いん）茵（いん）

<sup>12</sup>『落葉集』「医家（いけ）」に対し、『日国』に「い-け【医家】」と「い-か【医家】」があった場合、この順で並べて採る。『日国』「い-け【医家】」は「い-か【医家】」への送り項目となっているが、このような場合に限らず、類似の語義で取られた見出し語形違いのものは全て採る。これは、『日国』ではそれらの箇所異なる用例（その一部は語形が確定しないもの）を配置するなどの場合があるためである。

<sup>13</sup>「籠」は『落葉集』に「ろ」「ろう」,「六」は「ろく」「ろつ」の二種の音が示されており、あくまでも「ろ」「ろつ」は、籠具（ろぐ）、六根（ろつこん）、六境（ろつきやう）、六界（ろつがい）、六方（ろつぼう）、六角（ろつかく）といった熟語形のための字音読みを別途立項したものである。

## 路 (ろ) 籠 (ろ) 六 (ろつ)

・『日国』に「字音語素」としての掲出がなかった6語

硫 (い) 音 (いん) 飲 (いん) 隠 (いん) 籠 (ろ) 六 (ろつ)

## 3.2.2 代表字 (単字) の訓読み一イ部 34 字, 口部 13 字 (計 47 字)

『落葉集』の和訓は基本語が中心であり, また「院 (おりいのみかど)」のような複合語も『日国』に立項があったため, すべての語に『日国』URL を付与することができた。ただし, 以下の例のように, 『落葉集』の漢字表記が『日国』の代表表記に見えないものもあり, 機械的な同定作業だけでは処理できない場合もあった。

(『落葉集』) 易 (やすし/かはる)	(『日国』) かわ・る [かはる] 【代・替・変・渝】
(『落葉集』) 委 (くはし/つぶさ/ゆだぬ)	(『日国』) つぶさ 【具・備】
(『落葉集』) 囿 (かこむ/めぐる)	(『日国』) めぐ・る 【巡・廻・回】
(『落葉集』) 依 (よる/たのむ)	(『日国』) たの・む 【頼・恃・憑】

なお, 筆者らの作成した凡例通り, 『落葉集』「一 (ひとつ/はじめ/ひとり)」の「はじめ」などには, 『日国』の「はじめ【始・初】」と「はじ・める【始】」両者の URL を手作業で付与したが, これらは『日国』項目内部の関連語彙連携情報があれば, 省くことのできる作業であると考えられる。

## 3.2.3 熟語一イ部 405 語, 口部 61 語 (計 466 語)

以下の 62 語は, 『日国』と一致しない項目である<sup>14</sup>。

医法 (いはう)	威名 (いみやう)	一魚 (いちぎよ)
異行 (いぎやう)	衣儀 (いき)	一医 (いちい)
異口 (いこう)	易法 (いはう)	一舌 (いちぜつ)
意情 (いじやう)	易難 (いなん)	一学 (いちがく)
意行 (いぎやう)	易戦 (いせん)	一願 (いちぐはん)
意舞 (いぶ)	易修 (いしゆ)	一間 (いちもん)
違情 (いじやう)	圜地 (いち)	一統 (いちぞく)
違誠 (いかい)	一郡 (いちぐん)	一斉 (いちざい)
違行 (いぎやう)	一屋 (いちをく)	一縁 (いちえん)
威鳳 (いほう)	一牛 (いちぎう)	一雅意 (いちがい)
威音 (いいん)	一馬 (いちば)	一万 (いちまん)

<sup>14</sup>ただし「威名」は「いめい」, 「一斉」は「いっせい」, 「一姓」は「いっせい」, 「路人」は「ろじん」として掲出がある。いずれも用例としても『落葉集』を採らない。「一姓」は漢字表記の用例 (『蔭涼軒日録』) のみで辞書欄もないため, 『落葉集』が語形推定の一助となる可能性がある。

一由旬 (いちゆじゆん)	一廻 (いつくはい)	露榮 (ろえい)
一車 (いつしや)	一聖 (いつせい)	路人 (ろにん)
一孤 (いつこ)	一姓 (いつしやう)	路歌 (ろか)
一識 (いつしき)	一性 (いつしやう)	驢事 (ろじ)
一返 (いつぺん)	印杖 (いんぢやう)	籠具 (ろぐ)
一障 (いつしやう)	因種 (いんしゆ)	六万 (ろくまん)
一鑑 (いつかん)	飲吸 (いんきう)	六千 (ろくせん)
一劫 (いつこう)	引弓 (いんきう)	楼前 (ろうせん)
一翰 (いつかん)	露花 (ろくは)	漏器 (ろうき)
一香 (いつかう)	露珠 (ろしゆ)	

池田 (2024) では、『類聚名義抄』和訓 1393 例<sup>15</sup> 中少なくとも 1101 例に『日国』ID を付与できた (点検を経ればさらに増える) との報告がある。八割前後の語に『日国』ID を付与できるという点では、本稿の音読の熟語の数値と似た結果とも言える<sup>16</sup>。この数値の高低を評価することは現段階では難しいが、共通キーとしての役割が十分に果たせる数値とは言い難いであろう。

### 3.3 『日国』の補遺と語誌研究への応用

『落葉集』の語を調べたところ、『日国』が辞書欄を設けていない語が散見された。それらは「医学士」(<https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2002003138d5Z1BZ4t52>) のように用例として『落葉集』を挙げるものもあるが「異俗」「意根」のように用例にも挙げないものの方が多い。また「異法」のように、辞書欄がなく、かつ初出が近代 (金子筑水『個人主義の盛衰』) のものや、「依然」のように辞書欄が近代辞書『言海』のみの場合もある。

さらに、『日国』「いぎ【異儀】」「いぎ【異議・異儀・異義】」のように、『落葉集』「異儀 (いぎ)」と表記・語形が同一の項目が二つに分けて立項される場合がある。この例では内容上 (語釈) の差異も不明瞭であり、一方 (前者) には辞書欄がない。作業上は二つの URL を熟語①として付したものである。「一郷 (いちがう)」は『日国』に「いちごう」「いっきょう」として挙がるが、語釈は同義、初出用例はそれぞれ近代、近世のもので、いずれも辞書欄はない。処理上は①「いちごう」②「いっきょう」となる。他に注 12 に示したような例もあり、『日国』の不統一な記述に対してどのように対応するかは、ある程度機械的に決定しておく必要がある。

当然これらの情報は、『日国』の記述の補填につながるのみならず、個々の語誌研究発展への足がかりともなり得る情報となるであろう。

<sup>15</sup> 「[ア] で始まる和訓で、漢字入力可能なもの」(p. 23) が 1393 例とのことである。

<sup>16</sup> 和訓同士で比較するならば、『落葉集』での付与率は 100% であったため、比較とならない。『落葉集』の和訓 (定訓) が基礎語であるとともに、見出し漢字にも難解なものが含まれないことによるものである。

#### 4. 横断検索実装にむけての展望

本稿では、『落葉集（本篇）データベース』の公開と、それを対象として、古辞書データベースの横断検索のための共通キーとして『日国』URL 付与を行った過程と結果について述べた。上に示したように、イ部・ロ部の 466 語中 62 語が『日国』に非掲載であることや、本稿で二重下線を引いた箇所などでは作業者の恣意的な判断を行ったこと、そもそも最も単純な構造を持つ『落葉集』においても様々な課題が浮かび上がったことなど、URL 付与を複数辞書に拡大するためには、さらに検討の必要があることが明らかとなった。

なお、『日国』の欠を補う措置として、まずは 2032 年に刊行予定とされている『日本国語大辞典』第三版での補綴を期待したい。また、国立国語研究所で構築中の『語誌情報ポータル』(<https://goshidb.ninjal.ac.jp/goshidb/>) や『日本語歴史コーパス』(<https://clrd.ninjal.ac.jp/chj/>) の語彙素等との連携を視野に入れて進めることも可能であろう。後日の検討を期すとともに、さしあたっては『辞書語彙データベース』の他の辞書にも『日国』URL を付し、『日国』の項目を介した横断検索のためのシステム設計・実装を目指すこととしたい。

#### 参考文献

- 池田証壽 (2024) 「『類聚名義抄』の和訓と『日本国語大辞典』」『訓点語と訓点資料』153: 17–28.  
今野真二 (2018) 『日本国語大辞典をよむ』東京：三省堂。  
高田智和 (2024) 「外部データベースとの接続可能性」『日本語学会 2024 年度春季大会予稿集』236–238。  
藤本灯 (2023) 「色葉字類抄の語彙の性格」『日本語学 特集：辞書を編む・辞書を引く』42(2): 58–67. 東京：明治書院。  
藤本灯・久保証子・劉冠偉 (2023) 「『辞書語彙データベース』の構築と展望—異種古辞書連携のためのキー策定を目指して—」『日本語学会 2023 年度秋季大会予稿集』139–144。  
藤本灯・劉冠偉・久保証子・大島英之 (2023) 「古辞書データベースの開発」『じんもんこん 2023 論文集』67–72。  
劉冠偉・武倩・申雄哲・韓一・藤本灯 (2025) 「本草和名と古活字版和名類聚抄の全文テキストデータ（附：和名索引）」『デジタル・ヒューマニティーズ』4(1): 53–57。

#### 関連 Web サイト

- 大英図書館蔵本『落葉集』：国書データベース <https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/100415167/1?ln=ja> (2025 年 6 月 30 日確認)  
フランス国立図書館本『落葉集』画像：Gallica (BnF. Département des Manuscrits. Japonais 344) <https://gallica.bnf.fr/view3if/ga/ark:/12148/btv1b10508396b> (2025 年 6 月 30 日確認)  
耶蘇会板落葉集総索引（笠間索引叢刊 55）：国文学研究資料館 学術情報リポジトリ [https://kokubunken.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=controlnumber&search\\_type=2&q=194](https://kokubunken.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=controlnumber&search_type=2&q=194) (2025 年 6 月 30 日確認)  
『辞書語彙データベース』<https://jisho-goi.kojisho.com> (2025 年 6 月 30 日確認)  
『落葉集データベース』<https://jisho-goi.kojisho.com/racvyoxv> (2025 年 6 月 30 日確認)  
『落葉集データセット』<https://doi.org/10.5281/zenodo.16892693>

## Construction and Public Release of the “*Rakuyōshū* (Main Volume) Database”: With an Attempt to Formulate Keys for Interlinking Diverse Historical Dictionaries

FUJIMOTO Akari<sup>a</sup>

KUBO Masako<sup>b</sup>

LIU Guanwei<sup>c</sup>

<sup>a</sup>Tsinghua University

<sup>b</sup>Graduate Student, The Graduate University for Advanced Studies,  
SOKENDAI / Adjunct Researcher, NINJAL

<sup>c</sup>Kyoto University / Project Collaborator, NINJAL

### Abstract

This study discusses on the compilation and public release of the “*Rakuyōshū* Database”, a Japanese dictionary from the Muromachi period. It also attempts to formulate common keys for a cross-dictionary search system of historical dictionaries. We used headwords from the “*Nihon Kokugo Daijiten* (*NKD*)” (accessible via Japan Knowledge URLs) as common keys and attempted to link them with data from the ‘T’ and ‘Ro’ sections of the *Rakuyōshū*. The results revealed that a considerable number of words in the *Rakuyōshū*’s vocabulary are not included in the *NKD* (62 out of 466 compound words). Furthermore, even for words included in the *NKD*, the dictionary entry lacked a column indicating entry in major historical dictionaries, or where the earliest attested examples were dated after the *Rakuyōshū*. This suggests that our work is crucial for supplementing and refining the *NKD*.

**Keywords:** *Rakuyōshū* Database, Old Japanese dictionaries, *Jisho Goi* Database, *Nihon Kokugo Daijiten*, digital humanities